

後記

第二號をお送りする。今月は歌舞伎座の菊吉合同劇に通ひすぎて、とう／＼肝腎の寺子屋の批評を來月に廻さねばならなくなつた。その代り忠臣藏を詳しく書いてをいたから御批判を願ふ。

繪畫批評に手をつけて見た。此の方は芝居以上に分らないから、單なる印象批評になりさうだが、至らぬ處は御讀過願ふとして、兎に角、意のある點だけを汲んで頂ければ幸ひである。創刊號は敷をあまり刷らなかつたので、すぐ品切れになつてしまつて、後からの御請求に應ずる事が出来なかつた。本號は少し餘分に作つて置いたから、御入用の方は御申し越し下さればお送り出来ると思ふ。若し同好の方でもある

ならば御紹介下されば幸甚である。

第三號にはどなたかの原稿を頂く手筈をしてゐる。御期待を乞ふ。

昭和十四年五月一日印刷
昭和十四年五月五日發行

(毎月一回發行)

西宮市南郷町九十七番地

編輯兼發行人 武智鐵 二

神戸市湊東區相生町三丁目五六

印刷人 澤田信 次

神戸市湊東區相生町三丁目五六

印刷所 株式会社 神戸社印刷所

西宮市南郷町九十七番地武智鐵二方

發行所 「劇評」發行所